

大阪大学「Industry on Campus」の新しいスタート

- テクノアライアンス棟とフォトニクスビル -



夢はバラ色

馬場章夫*

「夢はバラ色」というタイトルは何かゆったりとした雰囲気を感じるが、あいにく昨今の大学では夢をみながら何かをじっくりと探求することが本当に難しくなっている。何かに追いかけて対応しているのが現状であるかもしれないが、その中でもやはり夢を見ながら活動したいものである。大阪大学では、社会との協働できる新しい産学連携活動を「Industry on Campus」の標語のもとで夢を模索している。一つの成功例として、企業と大学が一緒になって運営できる共同研究講座制度を平成18年に立ち上げ、現在26講座を数えるまでになり好評である。阪大らしい活動内容になっていると自負している。今回さらに、来年春の立ち上げを目指し、テクノアライアンス棟とフォトニクスセンタービルを新しい産学連携拠点として建設中である。あわせて16,000 m²になる大規模なものであり、その概要について紹介させていただきたい。

ご承知のように、この数年は、政治的および社会的にさまざまな激動が続き、大学も当然に例外ではありえなく、多くの予測できなかった事態がおこっている。日本社会が成長期でなくなれば、研究・教育に対する逆風がおこるのは有る程度は当然かもしれないが、最近の変動は激しすぎる。教育・研究は長期展望によるべきとの基本認識も崩れ去るほどの状況なのであろうか。残念ながら、この傾向は、し

ばらく続くことを覚悟せざるを得ないようである。各国立大学法人は、本当の意味での「法人」化を迎えたのかもしれない。大阪大学も、どのような方向に、どのようなミッションをもって進むべきか、今までのように「教育・研究のブランド」だけでは立ち行かないのであろうか。法人として、研究も経済的に自立せよということなのであろうか？ 自立すること自体がミッションになるのであれば、長い歴史をかけて積み上げてきたものの多くを犠牲にしなければならないように思う。

大学の基本的なミッションはもちろん人材育成である。いろいろと言われるが、大学における主たる育成対象はやはり学生である。社会との連携や社会貢献が声高に叫ばれているが、広い分野で活躍できる基礎力を持った人材を社会に送り出すことがやはり使命である。十分な力を持った人材を送り出していないというのが、社会からの指摘であることは真摯に受け止める必要があるかもしれないが、大阪大学では、全ての研究科が、それぞれの得意分野で、それぞれの特徴を発揮したやり方で人材育成をすることが重要だとおもう。産学連携はその一つの手掛かりであると認識している。

大阪大学の産学連携活動は非常に活発であるとの社会的な評価を得ているが、多くの大学にもある「産学連携推進本部」の設置は、旧帝大の中では最も遅く2009年です。組織より、まず具体的活動から始めるという阪大の体質によるのかもしれません。個々の研究者の共同研究に大きく依存しているのが現状です。この個々の教員の活動を、組織的に支援する目的で立ち上げたのが「共同研究講座」である。企業と大学が一緒になって大学のキャンパスの中で運営する仕組みが受け入れられて、多くの企業の研究者がキャンパスに常駐するようになった。学生や若い研究者が社会の風を直接感じられる場にもなって



* Akio BABA

1949年1月生
大阪大学工学部応用化学科(1971年)
現在・大阪大学大学院工学研究科 教授
工学博士 有機合成化学
TEL: 06-6879-7384
FAX: 06-6879-7387
E-mail: baba@chem.eng.osaka-u.ac.jp

おり、加えて企業間の交流も盛んになっている。発足以来4年が経過し、定着してきたように感じている。今後さらに問題点を改善しながら続けていく予定であるが、今回、さらに、新しい試みとして、2種類の産学連携の新しい試みを阪大から発信する。

一つは、阪大にフォトニクスに関する研究を集結させて21世紀の新しい産業を拓くという試みである。テーマ(分野)主導型の産学連携のひな形を作りたいと考えている。2007年に、バーチャルな形で工学研究科の河田聡教授を中心にした研究者と、電気・化学・計測・材料メーカーを結集して「阪大フォトニクス研究センター」を立ち上げた。その成果をもとに、現在5000 m²の規模で研究所を工学研究科の敷地内に建築中であり、来年早々には竣工予定である。ここを拠点にして、フォトニクスをキーワードにした研究育成・人材育成を行う予定である。企業の研究をこのビルに持ち込んでもらい、その機密は守りながらも、同時に他の企業の研究者はもちろん、学生とも混じり合いながら、革新的な技術を作り上げていけるような環境にするつもりである。この活動に興味を示し、参加を希望する企業や、研究者を内外から広く募っていき、フォトニクスヒルズを形成したいというのが参画している者の夢である。

もう一つは、テクノアライアンス棟の建設である。こちらは、共同研究講座の経験と実績を基にして、さらに深化・大型化させる試みであり、「協働研究所」といえる組織の立ち上げを中心に企画している。9階建て11,000 m²の大きな規模を利用して、研究室(講座)ではなく研究所に近い形をイメージしている。共同研究に加えて、企画や評価、人材育成機能をあわせ持った形とする夢を持っている。学生、とくに優秀な博士課程学生や若手教員の internship on campus を試みたい。現在、さまざまなアイデアを集めて形作りつつある。実現に近いものもあるが、

まだ夢の段階のものもあるので、幅広い方々からの提案を期待している。1階は大きな交流・展示スペースとして、さまざまなイベントも実施できるように考えている。産学連携という言葉からは、理系分野を連想しがちであるが、文系分野の企業にも大学のキャンパスに入らせていただく工夫が必要ではないか、異分野企業の中立ちがこのアライアンス棟でできないか模索したいと思っている。大学の強みは人材育成にあるのは当然であるが、同時にあらゆる分野の研究者が集まっているのも大きな特徴である。企業からもっと上手に大学を利用する提案をいただきたいものである。その第1段階として、だまされたいと思って、このアライアンス棟に数年間住んでいただくのはいかがであろうか？

このアライアンス棟やフォトニクスビルにすれば、あらゆる分野の優秀な人材が集まっているというのが私のばら色の夢である。企業や役所の立場から見れば、この場所で問題解決のヒントが得られる、優秀な学生が採用できる。いっぽう、大学からみれば、キャンパスに企業の優秀な研究者が常時いるという状況は、学生および研究者が社会との交流を持ちながら自らの将来設計を作れるということであり、人材育成の大きな助けとなる。大学にとって、産学連携は決してゴールではなく、人材育成の手段であると信じており、阪大は、この2つの新しい環境はそのためにつけている。いずれも阪大吹田キャンパスの中央に位置している。もちろん、現在入居を広く募集中である。下記にお問い合わせいただきたい。一緒に夢を実現できることを切望している。

お問合せ先；

テクノアライアンス棟；大阪大学産学連携推進本部
総合企画部 06-6879-4206

フォトニクスビル；大阪大学フォトニクス先端融合
研究センター事務局 06-6879-7927

